

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年4月30日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330155

研究課題名（和文）日本の家族に関するトレンド分析

研究課題名（英文）Trend Analysis of Japanese Family

研究代表者

永井 暁子（NAGAI AKIKO）

日本女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：10401267

研究成果の概要（和文）：

本プロジェクトでは、全国規模の家族の縦断調査である「全国家族調査」（1998年、2003年、2008年）データを用い、家族と仕事、世代間関係の動態、家族形成と育児、階層・ネットワークの4領域に関して分析を行った。多くの分析結果を要約すると、第一に、夫婦関係（妻の就労、夫の家事分担、夫婦関係満足度など）に大きな変化はみられない。第二に、家族形成には大きな変化があった。非典型的な家族、つまりステップファミリーなどが増加している。第三に、非典型的な家族は不利なことが多い。特に子どもにとって不利である。

研究成果の概要（英文）：

In the project, we used the national sample time series data “National Family Research of Japan (NFRJ98,03,08)” and analyzed on “Work and Family”, “Dynamics of Intergenerational Relationships”, “Family Formation and Child Care” and “Social Stratification / Social Networks”. Summarizing results of analyses, first, marital relationship (wives work, husband’s domestic work, marital satisfaction and so on) remains virtually unchanged. Second, family formation changed greatly. Non-traditional families (stepfamily, one parent family) increase. Third, non-traditional families in adverse condition. Especially children in non-traditional families in adverse condition.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2012年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	9,200,000	2,760,000	11,960,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：(N)家族・親族・人口

1. 研究開始当初の背景

家族の変化、多様化などと当たり前のよう
に記されることが多いが、実際にはどのよう
に変化したのか、あるいは変化したのかどう
かを明らかにされていない。社会問題につい
て考える際に、家族についてデータに基づいた
知見が必要となる。

2. 研究の目的

家族と仕事、世代間関係の動態、家族形成
と育児、階層・ネットワークの4領域に関し
て明らかにすることが本往路プロジェクトの目
的である

3. 研究の方法

全国規模の家族の縦断調査である「全国家
族調査」(1998年、2003年、2008年)デー
タを用いた。データの整備を進めながら、研究
会活動を活発に行ない、さらに学会などで発
表することによりメンバー以外の行くこと
ができた。

4. 研究成果

本プロジェクトでは、多くの分析結果を要
約すると、第一に、夫婦関係(妻の就労、夫
の家事分担、夫婦関係満足度など)に大きな
変化はみられない。第二に、家族形成には大
きな変化があった。非典型的家族、つまりス
テップファミリーなどが増加している。第三
に、非典型的家族は不利なことが多い。特に
子どもにとって不利である。他にも多くの知
見が得られている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計16件)

- ①永井暁子、結婚歴による生活満足度の差異、
社会学研究、査読無、第90巻、2012、39-53
- ②大日義晴、配偶者サポートの独自性：
NFRJ08 データを用いた計量分析、家族社会学
研究、査読有、24(2)、2012、189-199
- ③西野理子、全国規模の家族調査による縦断
データの構築、社会と調査、査読無、第8巻、
2012、68-74
- ④稲葉昭英、2000年以降の家族の変化、都市
社会研究、査読無、第4号、2012、21-35
- ⑤SHIMA Naoko、THE EFFECT OF WIVES'
CONTRIBUTIONS TO FAMILY INCOME ON
HUSBANDS' GENDER ROLE ATTITUDES：
Analyzing Data of the National Family
Research of Japan 2003 and 2008、GEMC
Journal、査読無、第6巻、2012、104-117
- ⑥筒井淳也、親との関係良好性はどのように

決まるか：NFRJ 個票データへのマルチレベル
分析の適用、社会学評論、査読無、63巻3号、
2011、301-318

⑦稲葉昭英、NFRJ98/03/08 から見た日本の家
族の現状とこれから、家族社会学研究、査読
無、第23巻第1号、2011、43-52

⑧島直子、妻の家計貢献が夫の性別役割分
業意識に及ぼす影響：夫の社会経済的地位
による交互作用、家族社会学研究、査読無、
第23巻第1号、2011、53-64

⑨米村千代、NFRJ からみた現代家族の姿—
パブリシティと専門性の接合、家族社会学研
究、査読有、22(1)、2010、96-101

⑩吉田崇、『現代日本人の家族』と全国家族
調査の意義、家族社会学研究、査読有、22(1)、
2010、90-95

⑪稲葉昭英、NFRJ08 のデータ特性—予備標
本・回収率・有配偶率、家族社会学研究、査
読有、22(2)、2010、226-231

⑫永井暁子、NFRJ08 回答者の基本属性、家
族社会学研究、査読有、22(2)、2010、232-237

⑬乾順子、正規就業と性別役割分業意識が
家事分担に与える影響—NFRJ08 を用いた分
析、大阪大学人間科学研究科『年報人間科学』、
査読有、第32号、2010、21-37

⑭松井真一、既婚女性の就業とサポート・ネ
ットワーク—多項ロジット・モデルによる
就業形態とネットワークの比較分析、立命館
産業社会論集、査読有、46(3)、2010、125-141

⑮Nishimura, Junko、What Determines
Employment of Women with Infants?:
Comparisons between Japan and US、明星大
学社会学研究紀要、査読無、30号、2010、17-26

⑯西村純子、女性の働き方とストレス—仕事
と家事・子育てとの両立のコツは？、季刊ひ
ようご経済、査読無、108号、2010、8-13

[学会発表] (計22件)

①乾順子、男性の家事分担の変化—NFRJ を
用いた時点間比較—、日本家族社会学学会第22
大会、2012年9月17日、お茶の水女子大学
(東京都)

②平沢和司、きょうだい構成と教育達成：
NFRJ きょうだいデータを用いて、日本教育
社会学学会第63回大会、2011年9月23日、お
茶の水女子大学(東京都)

③荒牧草平、教育達成における親族学歴の効
果、日本教育社会学学会第63回大会、2011年
9月23日、お茶の水女子大学(東京都)

④TANAKA Sigeto、A Quantitative Analysis
of the Economic Situation of Those Who Have
Undergone Divorce - the gender gap in
equivalent household income, 1998-2008,
in Japan、International Sociological

Association Research Committee 06
(Committee on Family Research) Kyoto
Seminar、2011-09-12、Kyoto University,
Kyoto, Japan

⑤ YAMATO Reiko、Is the norm of
patri-locality applied to older mothers
and fathers in the same way?: An
examination of the nature of
intergenerational relationships within
the intimate sphere in contemporary Japan、
International Sociological Association
Research Committee 06 (Committee on Family
Research) Kyoto Seminar、2011-09-12、Kyoto
University, Kyoto, Japan

⑥ 田淵六郎、少子高齢化の中の家族と世代間
関係：家族戦略論の視点から、日本家族社会
学会 第 21 回大会、2011 年 9 月 11 日、甲南
大学(兵庫県)

⑦ 荒牧草平、学歴の家族・親族間相関に関す
る基礎的研究：祖父母・オジオバ学歴の効果
とその変動、日本家族社会学会第 21 回大会、
2011 年 9 月 11 日、甲南大学(兵庫県)

⑧ 大日義晴、有配偶者におけるサポートの文
脈：ディストレスへの影響に着目して、日本
家族社会学会第 21 回大会、2011 年 9 月 10 日、
甲南大学(兵庫県)

⑨ 筒井淳也、日本の家事分担における性別分
離：NFRJ08 による分析、日本家族社会学会第
21 回大会、2011 年 9 月 10 日、甲南大学(兵
庫県)

⑩ 稲葉昭英、非初婚継続家族と社会階層、三
田社会学会大会シンポジウム、2011 年 7 月 9
日、慶応義塾大学(東京都)

⑪ 筒井淳也、マイクロデータに対するマルチ
レベルモデルの適用可能性：NFRJ08 による
親子関係良好度の分析、第 51 回数理社会学
会大会、2011 年 3 月 9 日、沖縄国際大学(沖
縄県)

⑫ 中西泰子、老親扶養規範意識の要因分析—
個人属性および地域特性との関連性—、第 83
回日本社会学会大会ポスターセッション報
告、2010 年 11 月 7 日、名古屋大学(愛知県)

⑬ 保田時男、ダイアド集積型家族調査を用い
た世代間関係の分析：全国家族調査 NFRJ へ
のマルチレベル・モデリングの適用、第 50
回数理社会学会大会、2010 年 9 月 10 日、獨
協大学(埼玉県)

⑭ 施 利平、儒教文化圏の日中韓三ヶ国にお
ける世代間関係の比較—同居を中心とする
分析から、明治大学情報コミュニケーション
学部と韓国全北大学校人文学部との国際研
究シンポジウム『韓国「併合」100 年から考
える日韓コミュニケーションの未来』、2010
年 10 月 30 日、明治大学(東京都)

⑮ 筒井淳也、マイクロデータに対するマルチ
レベルモデルの適用可能性：NFRJ08 による親
子関係良好度の分析、第 51 回数理社会学会

大会、2011 年 3 月 9 日、沖縄国際大学(沖縄
県)

⑯ 乾 順子、就業と家族に関する意識は家事
分担に差異をもたらすのか、第 20 回日本家
族社会学会自由報告、2010 年 9 月 11 日、成
城大学(東京都)

⑰ 松井真一、子どもの妊娠・出産における就
業継続の要因分析—サポートネットワー
クの影響について、第 83 回日本社会学会大
会自由報告、2010 年 11 月 7 日、名古屋大学(愛
知県)

⑱ 福田亘孝、結婚と出産の変化と持続性—未
婚化・晩婚化は少子化の要因か?—、第 20
回日本家族社会学会テーマセッション、2010
年 9 月 12 日、成城大学(東京都)

⑲ 田淵六郎、世代間居住関係の変容と規定要
因：NFRJ08・03・98 の比較を通じて、第 20
回日本家族社会学会テーマセッション、2010
年 9 月 12 日、成城大学(東京都)

⑳ 田中重人、離婚経験者にみる等価世帯所得
の男女格差とその要因：第 1-3 回全国家族調
査データによる定量的分析、第 20 回日本家
族社会学会テーマセッション、2010 年 9 月
12 日、成城大学(東京都)

㉑ 嶋崎尚子、21 世紀における家族のトレ
ンド：NFRJ98、03、08 データからみえる家族、
第 20 回日本家族社会学会テーマセッション、
2010 年 9 月 12 日、成城大学(東京都)

㉒ Kim JN、Giving Nonfinancial Support to
Parents and Parents-in-law —Results from
NFRJ08 surveys in Japan—、Kyujsangak
Institute for Korean Studies, Seoul
National University、2010 年 8 月 8 日、East
Asian Comparative Family Studies Workshop
(in Seoul, Korea)

〔図書〕(計 7 件)

① 施 利平、勁草書房、戦後日本の親族関
係：核家族化と双系化の検証、2012 年、182
頁

② 永井暁子編、勁草書房、日本家族の地域特
性—どこに住むと幸福なのか、2013 年、200
頁

③ Kunio Ishihara and Rokuro Tabuchi eds.、
Sophia University Press、Changing Families
in Northeast Asia: Comparative Analysis of
China, Korea, and Japan、2012 年、233
頁

④ 田中重人・永井暁子編、日本家族社会学会
全国家族調査委員会、
家族と仕事(NFRJ08 第 2 次報告書第 1 巻)、
2012 年、200 頁

⑤ 田淵六郎・嶋崎尚子編、日本家族社会学会
全国家族調査委員会、世代間関係の動態
(NFRJ08 第 2 次報告書第 2 巻)、2011 年、
196 頁

⑥ 福田亘孝・西野理子編、日本家族社会学会

全国家族調査委員会、家族形成と育児
(NFRJ08 第2次報告書第3巻)、2011年、
190頁

⑦稲葉昭英・保田時男編、日本家族社会学会
全国家族調査委員会、階層・ネットワーク
(NFRJ08 第2次報告書第4巻)、2011年、
192頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://nfrj.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永井 暁子 (NAGAI Akiko)

日本女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号: 10401267

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

稲葉 昭英 (INABA Akihide)

首都大学東京・人文科学研究科・教授

研究者番号: 30213119

澤口 恵一 (SAWAGUCHI Keiichi)

大正大学・人間学部・准教授

研究者番号: 50338597

嶋崎 尚子 (SHIMAZAKI Naoko)

早稲田大学 / 文学学術院 / 教授

研究者番号: 40216049

田中 重人 (TANAKA Shigeto)

東北大学大学院・文学研究科・准教授

研究者番号: 60294013

田淵 六郎 (TABUCHI Rokurou)

上智大学・総合人間学部・准教授

研究者番号: 20285076

西野 理子 (NISHINO Michiko)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号: 50257185

西村 純子 (NISHIMURA Junko)

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号: 90350280

福田 亘孝 (FUKUDA Nobutaka)

青山学院大学・社会情報学部・教授

研究者番号: 40415831

保田 時男 (YASUDA Tokio)

関西大学・社会学部・准教授

研究者番号: 70388388